

クアトロテスト検査について、その目的、方法、制度に関して以下ご説明いたします。

1. 検査の目的および検査で分かること

赤ちゃんがダウン症候群・18トリソミー・開放性神経管奇形である確率を算出するスクリーニング検査です。双胎妊娠の場合には、18トリソミーの確率は報告できません。

2. 検査の方法

妊婦さまの血液を採取し、血液中のAFP(αフェトプロテイン)、hCG(ヒト絨毛性ゴナドトロピン)、uE3(エストリオール)、インヒビンAの4つの成分を測定します。確率は、4つの成分の値に加え、母体年齢、妊娠週数、体重、日本人の基準値、インスリン依存性糖尿病の有無、既往分娩歴の有無などに基づいて計算されます。

3. 検査の精度

クアトロテストは確定診断ではありません。罹患した児を妊娠していた人のうち、クアトロテストでスクリーニング陽性結果を得ていた人の割合は、ダウン症候群 87%、18トリソミー77%、開放性神経管奇形 83%です。

4. 検査結果の報告の仕方

「1/500」のように確率で報告されます。疾患ごとに基準となる確率(カットオフ値)が定められており、疾患ごとにカットオフ値と妊婦さまの確率を比較します。カットオフ値よりも高い場合はScreenPositive(スクリーニング陽性)、低い場合にはScreenNegative(スクリーニング陰性)と報告します。

5. 検査結果の解釈の仕方

確率が1/500であれば、「同じ1/500の結果を得た妊婦さまが500人いた場合、その中の1人が対象疾患の赤ちゃんを妊娠している可能性がある」と解釈します。

スクリーニング陽性では、「赤ちゃんが対象疾患である確率はカットオフ値より高いが、赤ちゃんが対象疾患に罹患しているということではない」と解釈します。

スクリーニング陰性では、「赤ちゃんが対象疾患である確率はカットオフ値より低いですが、対象疾患に罹患した赤ちゃんが絶対に生まれないということではない」と解釈します。

6. クアトロテスト後の検査

ダウン症候群および18トリソミーは羊水染色体分析が確定診断となり、開放性神経管奇形には、超音波検査などの画像診断・羊水α-フェトプロテイン検査があります。

羊水染色体分析および羊水α-フェトプロテイン検査では、妊婦さまの腹部に細い針(穿刺針)を刺して羊水を採取しますので、危険が全くないわけではありません。穿刺後に赤ちゃんが流産する可能性が1/300程度あると言われていています。

7. 注意事項

休日診療日はクアトロテスト検査不可

※検査可能日につきましては、産婦人科へお問い合わせください。

個人情報保護により、お電話での検査結果のご説明はいたしておりませんので、10~15日後の診療時間内にご来院下さいますようお願いいたします。

[同意書]

年 月 日

愛和病院院長 殿

遺伝カウンセリングを受け、私は上記説明を理解し、クアトロテスト検査を受けることに同意いたします。

■患者氏名 _____



愛和病院

埼玉県川越市古谷上983-1
〒350-0001

TEL 049-235-8811(代)
FAX 049-235-8812